

体つくり運動における新体操用リボンを用いた教材

開発と効果に関する研究

—第4学年の授業実践より—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

諸岡 伶奈

体つくり運動における多くの実践は単調の動きの反復に終始した内容になりがちであるという課題から（近藤, 2008）、本実践では新体操用リボンを用いた教材を開発し、その有効性を検証することを目的とした。新体操用リボンは、特別な技術がなく、簡単な操作で動きが形に現れることが特徴的であることから、多様な動きが生まれやすく、授業者も児童の様々な動きを引き出しやすいと考えた。

単元始めは「回す」、「投げる」だけの動きであったが、授業を重ねるうちに、「回しながらリボンを飛び越す」、「投げながら側転してキャッチする」など、既存の動きを組み合わせた動きが生まれるようになった。動きの例示はせずに、子どもたちの中から出てきた動きを共有し広げていくことにより、多様な動きの創出につながったと考えられる。

本実践から、人数や用具の操作を変化させることにより、多様な動きを創り出し用具を巧みに操作できるようになった様子が見られた。このことから、リボンを用いた教材の有効性を明らかにすることことができた。